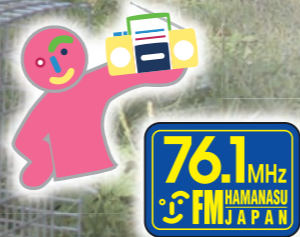


野生動物との 付き合い方



市職員が出演して説明します
9月13日(金)
午後5時40分

毎年、岩見沢市内でも出没情報のあるヒグマ。今年は、住宅地付近の目撃情報もありました。報道を見ても、道内のヒグマ出没情報は増えています。住宅地付近で出没するケースも目立っており、「野山に入らなければ、関係ない」ということではないのかもしれませんが。

一方で、同じクマという名前ですが、農家の畑や家庭菜園を荒らすアライグマがいます。アライグマによる農作物被害は、深刻な問題となっています。

今月号は、この2つのクマ対策をはじめ、野生動物にスポットを当てました。
問合せ先 市農務課

ヒ

グマを知ろう！

ヒグマは、北海道の多くの地域に生息しています。北海道を象徴するキャラクターとして、土産品などのモチーフにされており、北海道の大自然と野生動物のシンボルとなっています。

餌場に入っている意識を！

春の山菜採りや秋のきのこ狩りは魅力的ですよ。でも、それはヒグマも同じ。春の冬眠明けに山菜を食べ、秋の冬眠準備のため、積極的に餌を採ります。山菜採りや、きのこ狩りで野山に入るといことは、ヒグマの餌場に足を踏み入れていることになるのです。

これから、きのこ狩りの季節を迎えます。野山に入る人が、遭遇する確率が最も高くなります。下ばかりでなく、周りにも注意を払ってください。また、キャンプや登山、溪流釣りを楽しむ人なども同様に、ヒグマの餌場に入っている意識を持ちましょう。

出会わないのが一番！

ヒグマに襲われないためには、ヒグマに出会わないことです。事故の多くは、山菜採りなどで野山に入っただけの、突発的な遭遇で発生しています。ヒグマに出会わないために次のことに注意しましょう。

野山に入る前に

新聞やテレビ、地元の市役所や町村役場、森林管理署などで、事前にヒグマの出没情報を確認してください。ヒグマ出没の看板がある場所への立ち入りは避けましょう。また、犬を連れての立ち入りは、ヒグマを興奮させることがあり危険です。

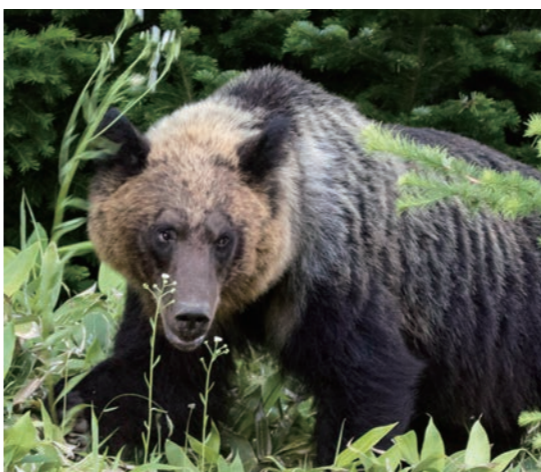
人の存在を知らせよう

単独行動を避け、おしゃべりしたり、音をたてたり、鈴をつけたり、見通しの悪い場所では笛を吹いたりして、ヒグマに人の存在を早め知らせましょう。



特に、ヒグマの活動が活発になる早朝や夕方、ヒグマが人に気付きにくい濃霧や雨のときには注意が必要です。

分類 食肉目 クマ科 クマ属
形態 体長は2～2.8m、体重はオスで150～400kg、メスで60～120kg程度。毛色は黒や褐色が多い
生態 目はあまり良くないが、耳や鼻は鋭敏。身体能力に優れ、時速50キロで走ることができ、小さな個体であれば簡単に木に登る。基本的には単独で生活するが、子どもは生後1年半から2年半を母グマと過ごす。メスは何年も一定範囲で暮らし、行動範囲は数km～数十kmと狭い。オスは数十km～500kmと広い範囲を行動する

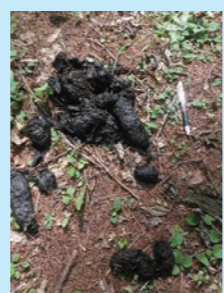


糞や足跡を見たら引き返す

次のような糞や足跡、草のちぎられた跡などを見て、「おかしい」と思ったら引き返しましょう。

ヒグマの糞

全体の大きさは握りこぶし以上(5cm以上)で、糞の1つ1つが太く大きいですが、柔らかい糞の場合は、一塊になっています



タヌキやアライグマの糞

糞をする場所を決める習性があるので、全体の大きさはヒグマに近くありませんが、糞の1つ1つは犬の糞に似た大きさで、新旧の糞が入り混じっています。1カ所に糞を溜めるため、糞と呼ばれます



ヒグマの足跡



食べ物やごみは必ず持ち帰る

残飯・生ごみなどは、ヒグマにとっておいしいごちそうです。ごみの投げ捨てや餌やりは厳禁。いったん味を覚えると、それを目当てに繰り返し現れ、人にも近づきようになりま。ごみを野外に放置したり、埋めたりせず、必ず持ち帰りましょう。

出会ってしまった！

出会わないことを意識していても、ヒグマに出会ってしまったら、次のように行動してください。

まずは落ち着いて行動を

慌てることは事故につながりま。落ちついて状況を判断しましょう。走って逃げると追いかけてくることがあるので危険です。



刺激しない

ヒグマがこちらに気付いていないなら、その場を静かに立ち去りましよう。こちらに気付いていて距離が近い場合は、視線をそらさずゆっくりと後退してください。リュックや服などの持ち物をそとと置くと気を引いて時間を稼げます。持ち物を取られた場合は諦めましょう。ヒグマは、自分が捕獲した獲物に対して強い執着心を示すため、回収しようとするのは大変危険です。

子グマの後ろには母グマが

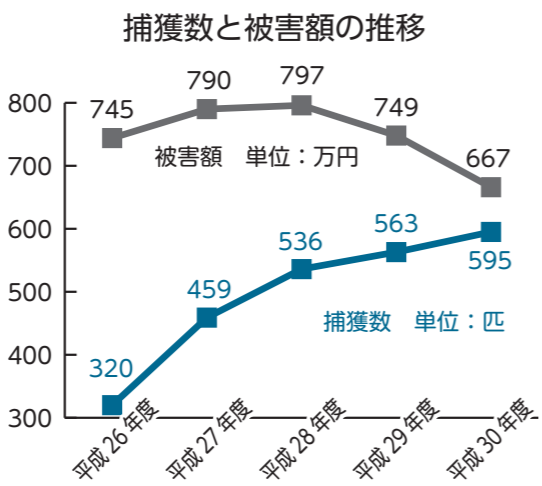
子グマを見つけても絶対に近づかないこと。速やかに立ち去ってください。不用意に近づくと母グマの攻撃を受ける可能性が高いです。

絶対安全の対処法はない！

ヒグマとの遭遇にはさまざまなケースがあり、これで絶対安全という対処法はありません。これまで示した内容は、調査研究や経験から有効と考えられているものです。一番大事なことは、ヒグマに出会わないことです。もし目撃した場合は、すぐに市農務課までご連絡ください。

大きな被害が！

アライグマの捕獲数は年々増えています。それに伴い、農作物の被害状況も減少傾向にありますが、大きな被害が出ていることに変わりはありません。



足跡や爪痕で！

では、農作物の被害が、アライグマによるものかどうかは、どこで判別するのでしょうか？ アライグマは、特徴的な形をした器用な手足を持っているので、残された足跡や爪痕で判別するのが確実です。



(株)野生鳥獣対策連携センター専務取締役 阿部 豪 さん提供

アライグマを知ろう！

同じクマでもアライグマは、かわい〜というイメージを持っている人が多いのではないのでしょうか？ アライグマは、テレビアニメで人気となった、もともと日本に生息していなかった動物です。ペットとして飼われていたものが捨てられたり、逃げ出したりして、野生化するケースが相次ぎ、農作物や生活環境への被害が増えました。このため、**特定外来生物**として指定され、ペットとしての飼育が禁止されました。

市は、目撃情報や被害報告などにより、**箱わな**を設置し、捕獲するようにしています。



分類 食肉目 アライグマ科 アライグマ属
形態 顔つきや体の大きさはタヌキによく似ているが、顔の中央の眉間に黒いスジがあり、最大の特徴は尻尾に5・6本の縞模様がある。成獣で体重4～10kg、体長40～60cm
生態 夜行性で警戒心が強く、人前に姿を現すのは珍しい。天敵がいない。力が強く狂暴

被害に遭った、どうすれば？

アライグマの被害に遭った場合は、市または地元猟友会などに駆除または捕獲を依頼するか、自分で捕獲することができます。

駆除または捕獲を依頼する場合

- 市農務課林業畜産係に、被害状況や場所などを連絡
※市内の猟友会などに、お知り合いのハンターがいる場合は、ハンターに直接依頼しても構いません。
- 市農務課から、猟友会などに駆除を依頼
- ハンターが箱わなを設置
- 箱わなにかかった場合は、市農務課に連絡し、ハンターが対応
- 状況に応じて箱わな、設置を継続

自分で捕獲する場合

【狩猟免許を取り捕獲する】

狩猟免許試験に合格し、北海道知事の狩猟者登録を受けて、有害鳥獣駆除として捕獲することができます。アライグマだけでなく、キツネやタヌキなども捕獲可能です。

試験は有料で、予備講習会（有料）もあります。

予備講習会 1月26日(日)

狩猟試験 2月2日(日)

※詳しくは、北海道猟友会岩見沢支部にお問い合わせください。また、広報いわみざわ12月号でもお知らせします。

【アライグマ捕獲従事技術講習会を受講し捕獲する】

例年3月上旬に開催しているアライグマ捕獲従事技術講習会を受講すると、狩猟免許がなくても岩見沢市の従事者として捕獲することができます。受講料は無料です。捕獲できるのは、アライグマに限ります。問合先 市農務課林業畜産係



北海道猟友会岩見沢支部

猟友会に加入すると、ベテラン会員から技術指導を受けることができたり、狩猟免許の更新や狩猟保険の加入手続きなどがスムーズにできたりと、さまざまなメリットがあります。狩猟免許を取った際は、ぜひ猟友会に加入を！



北海道猟友会岩見沢支部
支部長 天崎弘 さん

住 所 岩見沢市大和町 256 番地 4

電 話 24局 1111

※火・木曜日の午前9時30分から午後4時30分まで。



寄生虫に注意！

北海道には、他の都府県ではあまり見られない、エキノコックス症という病気があります。これは寄生虫の一種で、成虫はキツネや犬に、幼

近

づかない



虫は野ネズミに寄生します。成虫は卵（直径0・03ミリの球体で肉眼では見えません）をつくり、その卵が人の口に入ってしまった場合に感染することがあります。キツネやそのフンに触ったり、フンに汚染された山菜や沢水を口にしたりすると感染する恐れがあります。アライグマにも、アライグマ回虫が寄生していることがあります。エキノコックス同様に、卵が人の口に入ってしまった場合に、アライグマ回虫による幼虫移行症に感染することがあります。いずれも、命にかかわることもある恐ろしい病気ですが、キツネやアライグマを住宅の周囲に近づかせない、生ごみなど餌になるものを放置しない、餌付けしたり、触れたりしないといったことで予防できます。

餌付けダメ！ゼツタイ！
キツネやカラス、ハトなどの野生動物に餌を与えることは、親切心からかもしれませんが、そもそも野生動物は、自分たちの餌を採れる場所にやってきて、餌がなくなれば新たな場所を探します。私たちが餌やりをしなくても、自分たちで生きていくことができます。

また、餌やりを始めると、野生動物が集まってくるようになり、フンなどで道路や建物が汚れ、近隣の方にとって迷惑となります。

野生動物への餌やりは、絶対にやめましょう！

DO NOT FEED



ヒグマの目撃情報があるのは、私たちの行動や開発により、ヒグマの生息地を狭くしているからかもしれません。そして、アライグマは人間が日本に持ち込んだ動物で、アライグマには非はないのかもしれませんが、野生動物に対して過度に手を差し伸べることは、生態系のバランスを崩してしまいます。

私たちの生活は、さまざまな環境で、さまざまな生き物が、さまざまな関係でつながっている、生物多様性の恵みで守られています。その生物多様性を守るため、野生動物には餌をあげない、ペットは最後まで責任をもって飼う、生き物と人のつながりを普段から考えるなど、できることから始めてみませんか。